

こんなことやっています！こんなところががんばっています！  
**地域おこし協力隊通信**

**今後も長島町でがんばります**

〜長谷川隊員卒業〜



7月31日をもって長谷川一総さん（市来崎）が地域おこし協力隊を卒業しました。これまでの活動を振り返ります。

長谷川隊員、町民の皆さんをはじめ、応援してくださったすべての皆さん、本当にありがとうございました。

コロナ期間を挟み、4年間の活動となりましたが、なんとか無事やり終えたことに安堵しています。私は鳥獣被害対策の協力隊として着任してから、狩猟免許を取得し、イノシシを

**これまでのデータ解析して**  
 捕獲データから、長島町のイノシシに関するさまざまな情報がわかってきました。その一部である令和5年度のデータを例に見てみます。今回、解析に用いたデータは740頭分です。

図1 オスとメスの年度内推移

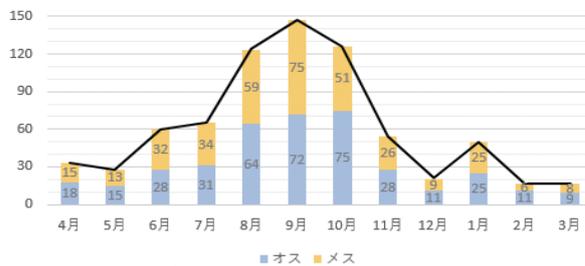


図2

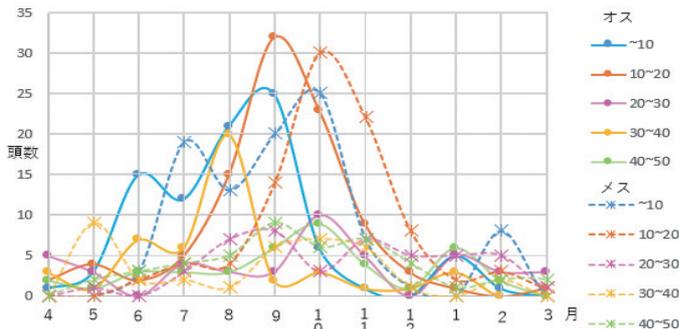


図2では、体重別に分けた雌雄の捕獲時期の違いです。オスとメスでは、捕獲されるタイムシフトが少しずれていることがわかります。

図1のとおり年間を通して雌雄の捕獲量は、ほぼ同程度度。6〜7月にかけてのオス先行形の原因が特に難解ですが、次の3つの考察が生まれます。

- ① 出生時点で性別による個体差が大きく偏っている。
- ② オスが好奇心旺盛である。
- ③ 母乳獲得の強い個体がオスであり、成長とテリトリー拡大が早期である。

この考察を裏付けるには、まだまだ情報不足ですが、データを眺めて考えていると、イノシシは身近な動物にも関わらず、未解明な部分が多く、興味を掻き立てられます。

私もフィールドに出る精神を忘れず、イノシシの生態を知り、より効果的な防除法や、共存の道の模索ができればと思っています。

図1は捕獲されたイノシシの雌雄の年度内推移です。これを見ると、一年間に捕獲されたイノシシは8〜10月に多いことがわかります。一年を通して雌雄の割合は、ほぼ1対1でした。

6〜7月は、体重10kg未満の雌雄（図中の青線と青点線）が最も多く捕獲されていますが、6月は、オスが多く、7月になると、メスが多く捕獲されています。8〜10月にかけても同様にオス先行形となります。9月以降になると雌雄ともに体重10〜20kgの個体（図中の赤